

阿波の八ちゃん みなで、ようにせんか!

【“阿波の八郎”の由来】
昭和62年に流域住民からの那賀川の愛称募集の結果、流域市町村の数(8)を主体に吉野川の四国三郎に倣って、八の字の縁起により「八郎」の名前が誕生した。

～砂レキが復活し、清流にアユが躍る那賀川づくり～

那賀川再生へのとりくみをはじめから10年の節目を迎えました。そこでこれを機会にシンポジウムを開催することとしました。本シンポジウムでは以下のようなことについて、地域住民の皆さんと相互理解を深めたいと思います。

1

那賀川って
どんな川
(那賀川の今昔)

2

自然の川って
どんな川
(自然の川は
変動するもの)

3

那賀川を自然の川へ
戻すには
(長安ロダム他の
とりくみ紹介)

4

本来の
那賀川の姿
(総合討論)

5

今の那賀川を
見てみよう
(フィールドツアー)

●日時:
平成30年
1月27日(土)・28日(日)

27日(土)シンポジウム 【無料】 13:00~17:30
28日(日)フィールドツアー【有料】 8:30~13:00

●会場:阿南市 ひまわり会館 2階ふれあいホール
徳島県阿南市富岡町北通 33-1

●定員:シンポジウム 100名
フィールドツアー 40名



Question

どうやったらこうなるか?



Before



After



共催:応用生態工学会
国土交通省
那賀川河川事務所

お申し込み・お問い合わせ:
フィールドシンポジウム in 阿南 実行委員会
株式会社 建設環境研究所 九州支社 竹本・南・岩川
電話:092-271-6600 FAX:092-271-6565 Eメール fukg@kensetsukankyo.co.jp

裏面の出欠返信用紙をご利用ください。

申し込み / シンポジウム、フィールドツアー共に
締切日 / 1月19日(金)

1月27日(土)

■シンポジウム【無料】

- 13:00-13:05 開会
- 13:05-13:15 開催趣旨と那賀川の沿革 (那賀川河川事務所 事務所長 野本粹浩)
- 13:15-13:55 基調講演
 -自然の川は変動するもの-
 (京都大学防災研究所 水資源環境研究センター 准教授 竹門康弘)
- 13:55-14:05 那賀川の歌紹介
 「音楽物語 清き那賀川 ~時を超えて~」
 (阿南市立大野小学校 4年生)

—休憩—

- 14:20-14:35 “総合的な土砂管理”の現状について
 (国土交通省 砂防部 保全課 総合土砂企画官 宇根寛)
- 14:35-15:35 事例報告
 那賀川:長安口ダム置土モニタリング結果報告
 相模ダム:相模川の健全な土砂環境を目指して
 下久保ダム:土砂掃流試験によるダム下流河川の環境改善のとりくみ
- 15:35-17:30 総合討論(パネルディスカッション)
 「テーマ:那賀川における健全な土砂環境の姿とは」
 コーディネーター 徳島大学大学院 准教授 河口洋一
 コメンテーター 京都大学防災研究所 准教授 竹門康弘
 徳島大学大学院 教授 武藤裕則
 阿南工業高等専門学校 名誉教授 湯城豊勝
 土木研究所 上席研究員 萱場祐一
 那賀川河川事務所 事務所長 野本粹浩
- 17:30-17:35 閉会
- 18:00-20:00 交流会【有料;5,000円】 場所:ロイヤルガーデンホテル

1月28日(日)

■フィールドツアー【有料;500円】

- 阿南駅8:20集合、8:30出発
- ・土砂掘削箇所(追立ダム) 10:20~10:30
- ・長安口ダム置土地点(小計箇所) 10:50~11:05
- ・土砂堆積による河川環境の変化地点(水崎大橋) 11:20~11:35
- ・那賀川中下流部(川口ダム・県管理区間(那賀川蛇行部ほか)・直轄管理区間) 11:35~13:00
- ・阿南駅 13:00解散

プログラム PROGRAM



Answer 土砂還元

【土砂還元とは】

ダム上流の土砂を掘削して下流に運搬し、洪水時に自然に流下させることを土砂還元といいます。ダムのない川では水と一緒に土砂が流れますが、途中にダムがあると土砂が貯水池にたまるためダムの下流で土砂が不足します。これに対し、ダム下流への置き土砂をすることで、下流で不足した土砂が戻り、河川環境を改善する効果が期待されています。

フィールドシンポジウムin阿南 出欠返信用紙

申し込み方法;お名前・ご所属・連絡先・ご出欠を明記し下記FAX、Eメールまでお申込みください。

返信先 FAX:092-271-6565

返信先Eメール fukg@kensetsukankyo.co.jp

お名前	ご所属 (会社名、所属団体等)	連絡先 (電話またはEメール)	ご出欠※		
			シンポジウム (無料)	交流会 (有料)	フィールド ツアー(有料)
			出席・欠席	出席・欠席	出席・欠席
			出席・欠席	出席・欠席	出席・欠席
			出席・欠席	出席・欠席	出席・欠席

※いずれかに○印をおつけください。

阿波の八ちゃん みなで、ようにせんか

～砂レキが復活し、清流にアユが躍る那賀川づくり～



シンポジウムは、約150名が参加し立見者が出るほど盛大に行われた。本シンポジウムでは、京都大学の竹門准教授による基調講演や大野小学校4年生による「清き那賀川」の初披露、徳島大学大学院の河口准教授をはじめとする6人でのパネルディスカッションを行った。フィールドツアーでは、長安ロダムに堆積する土砂の掘削や掘削土砂の置き土砂状況を視察した後、置き土砂が到達している小計橋で川の近くまで降りて、瀬淵や河床材料について視察を行った。シンポジウム等を通じて、流域住民との相互理解を深めながら、今後は川口ダム下流への土砂還元の検討の必要性が確認された。

日時：シンポジウム 平成30年1月27日（土）13:00～17:30 約150名参加
フィールドツアー 平成30年1月28日（日）8:30～13:00 約60名参加
場所：徳島県阿南市ひまわり会館

■基調講演 ー自然の川は変動するものー 京都大学 准教授 竹門康弘

- ・日本の川の生物は、変動を受けて生息しており、2億年前から姿を変えないカゲロウもいるなど、変動に対して強い。
- ・目標に対して、過剰、不足があつて、初めて目標の値となる。
- ・目標は、幅をもった設定とし、変動を許容する必要がある。

■那賀川の歌(オリジナルソング) 阿南市立大野小学校 4年生

■総合的な土砂管理の現状について 砂防部 宇根総合土砂企画官

■事例報告

- ・長安ロダム置き土モニタリング結果報告 那賀川河川事務所 安永副所長
- ・相模ダム 神奈川県 河川下水道部 河川課 調査グループ 伊藤副技幹
- ・下久保ダム 水資源機構 下久保ダム管理所 木戸所長

■パネルディスカッション コーディネーター 徳島大学 准教授 河口洋一

パネラー 徳大教授 武藤裕則、京大准教授 竹門康弘、

阿南高専名誉教授 湯城豊勝、土研 萱場祐一、事務所長 野本稔浩

- ・那賀川の河床は昔に比べ、低下している。
- ・置き土でアユの産卵床などの環境が良くなっているが、大きめの石も欲しい。
- ・川と人が離れていっており、関心を持ってもらいたい。
- ・河床上昇による治水への悪影響が心配である。
- ・一時的に悪くなる箇所もでるが、変動を許容した管理が必要。
- ・川口ダム下流に到達するのは30年以上あとであれば、川口ダム下流にも置き土をおきたい。



竹門康弘准教授



大野小学校4年生



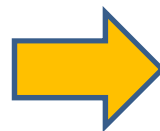
パネルディスカッション

■フィールドツアー行程

- | | | |
|---------------------|----|-----------------|
| 1. 阿南駅 | | 08:20集合、08:30出発 |
| 2. バス移動（細瀨橋からの視察含む） | | 08:30 ~ 09:45 |
| 3. 十二社（掘削箇所） | 視察 | 09:45到着、09:50出発 |
| 4. ビーバー館で休憩 | | 10:00到着、10:10出発 |
| 5. 小浜大橋（小計置土砂） | 視察 | 10:20到着、10:35出発 |
| 6. 小計橋（河床の状況） | 視察 | 10:40到着、11:40出発 |
| 7. バス移動 | | 11:40 ~ 13:00 |
| 8. 阿南駅 | | 13:00到着 |



置土による河床変化（小計地区の様子）



置土後

置土による河床変化（小計地区の様子）

